

帝都ノ復興ハ小ニシテハ都市大ニシテハ帝國ノフルネサンスニ
ニ闘スル重大事タリ九月四日死灰尚ホ未ダ冷ナラザルニ方リ復興ノ
議ヲ起シ其所說簡単ナレドモ我敬愛スル内閣諸公ハ皆聞一知十ノ明
アリ各自自ラ文字以外幾多ノ計會ト共ニ十全ナル大経綸湧出シ來ル
ベキ集注ヲ加ヘテ了解セラレ且相信ノ間御承知ノ如キ経過ニテ是迄
集行シ來リタルハ一ニ首相閣下先駆卓見ノ指導ニヨルユトヲ謝セザ
ルベカラズ昨日ノ審議會ハ豫見ノ事ナガラニ同ノ詔書モ發セラレ居
ル重大経綸問題ニ對シ固陋ト較平ト申ス外無之程ノ原案反對說アリ
之ニ東京市民ハ曩ニ造物ヨリ全身ニ歛衝ヲ生スベキ矣ヲ据ラレ尚ホ

水健康回復ノ氣運ニ向ニ無不不安ノ中ニ於テ更ニ姑息因循將來再震
火災ヲ免レ難キ境遇ヲ再造スル諭旨ヲ聞クニ至リ是已ニ詔書遵奉ノ
上ニ於テ遺憾ナルノミナラズ市民ニ罪惡ヲ累シレムルノ基ヲナスベ
ヤ虞アルコトヲ自覺セルコトナルヘシ是裏ニ參与會議及評議會議ニ
徵ニテ東京市民ノ希望ニ反入ルコト明カナリ恩自ラ以爲テノ首相閣
下此点ニ關シ夙ニ明察セラル、所アラン日夜微力ヲ盡ソシ大藏大臣
ト折衝シ互ニ隅意ナキ協商ヲスルエトノ幸ヲ得テ今日ニ到ル是豈現
在ノ快事タルノミナラズ幸ウシテ上詔書ノ聖旨ヲ發揚シ下市民否
國民ノ健全ナル福利ヲ開クノ實ヲ擧ゲ帝國ノ心ネサンスヲ達成スル
ヲ得テ山本内閣成立ノ意義ヲ見認ムルコトヲ得シ乎今回ノ審議會一
部ノ意見ト彼ノ赤穂政黨自ラ覺ラス真ニ國家ノ利害關係ヲ解セサル

モノニ對シテ極力奮闘斃レテ後已ム底ノ決心ナカルベカラズ
閣下内閣組織ノ初心ニ於テ已ニ決セラル、アラン比方ヨリ強ヒ
テ議會ニ對シサ撃ヲ与フルコトハ全然避ケサルベカラサルモ
攝政宮殿下親政ノ初步ニ方リ且國步艱難ノ時ニ際シ党派ナクレテ單
独先鋒ヲ捧ケテ大命ニ答ヘ奉ラントセラル、大決心ハ其レ何ソ雄ナ
ルヤ恩モ亦感激閣僚ノ貢ニ備ル是夫ノ榮ヲ貪リ一日ノ安ヲ論ムモノ
ト固ヨリ品ヲ異ニス當初ヨリ自テ大犠牲ヲ辞セバ生命ヲ賭シテ奮進
スルノ覺悟アリ仮令ニ現在ニ非難攻撃ノ衝ニ立ツモ耿々ノ微衷必ズ
ヤ天閻ニ達スルノ日アリ政敵降伏シ未ルノ時アランコト信ジテ疑
3. ハサルナリ唯恐ル閣下ノ為ニ時ニ不便ナルモノアランコトヲ即反對
派ノ所謂内閣暗躍タル後藤ノ為ノ不利ヲ未大コトアランシ恩が主張

所信ヲ以テ勇進邁往スルコト却テ閣下ノ為メニ大局上不便ナルモノ
アラバ明カニ恩ニ告ゲラレンコトヲ望ム慶ナリ恩が進退ノ如キ國家
ノ為内閣ノ為將又閣下ノ為ニ快ノ決スヘキナリ

閣下モ亦此國家ノ危機ニ際シ先軀ヲ以テ立テ玉碎ハ可ナリモ全
ハ不可ナリ所謂中立中間内閣ヲ組織シ真生命ヲ支持スルニ止マラバ
伯ノ伯タル所ノ真面目ニ非ナルヘシ山本内閣三日ニシテ斃ル、モ忠
誠ノ道ヲ聞キ以テ國民ニ向ノ處ヲ覺ラレムルニ足ルモノアラバ則チ
可ナリ夫ノ党中党ヲ立テ各派互ニ争ヒ不統一ノ内閣瓦解ヲ免レズ已
ムナク辞表ヲ呈シ寫カニ大命ノ再下ヲ仰ヒ現存内閣征命ヲ呪フが如
矣キハ婦女子モ愧ル慶ト大是敢テ閣下ニ告ル所以ノ必要アルニ非ナル

ベシ要スルニ

1
5
10
15
20
25
30
一、因少艱難

二、詔書二回下ル

三、事皆近ク農夫ノ善後兼ニ闊大

四、轉禍為福ノ機目前ニ存入

五、帝都復興ハ帝國ノ復興ナリ

六、姑息因循、聖旨ニ反ス

七、市民現在ノ不安ヲ去ルハ可

八、然レトモ姑息ニ流しテ却ラ市民ヲシテ永久ノ不安ニ

留ラシムルハ不可

九、審議會一二ノ所說ハ畏クモ 詔書ニ反シ永ツ市民各

自ニ市民不幸ヲ与ヘ中外ノ期望ニ反シ國民ノ面目ヲ

汚入ノ虞アリ

十、彼等ノ立論ハ山本内閣存立ノ意義ヲ害スルモノニシ
テ如何ニ善意ヲ以テ解釋スルモ内閣破壊ヲ目的トス
ルモノニ非サルカ

市民又ハ國民ニ姑息ノ仁ヲ賣リテ永久ニ不利不幸ヲ
貽スモノト云フベキニ非サルカ

地方民ノ公債羣衆ヲ制限シ地方發達ヲ妨クルモノト
ノ名義ニ籍リテ地方民ヲ毒シ中核ノ不健全即病体ヲ
造リ却テ永久ニ國民ノ政治文化経済上ニ不健全ナル
累々及ホスコトヲ知ラザルニ坐スルモノト云ハザル
ヲ得バ依テ尤ノ決着魚ニ達ス

七

固陋軽率ノ意見（江木伊東大石高齋ノ意見）ニ對
シテ之ヲ排シ

詔書ノ旨ヲ体シ一向ニ進ムベキカ

然ルニハ原案ト彼等ノ意見ト參照會及許議會ノ再
議ニ付シ然ル後商議ニ於テ株否ヲ決セラルベシ

大正十二年十一月二十五日

帝都ノ復興小ニシテハ都市大ニシテハ帝國ノフルキサンスレニ
關スル重大事タリ九月四日死灰尚ホ未ダ冷ナラザルニ方リ復興ノ議
ヲ起シ其所記簡單ナレドモ我敬愛スル内閣諸公ハ皆聞一知十ノ明ア
リ各自自ラ文字以外幾多ノ計會ト共ニ十全ナル大經倫湧出シ来ルベ
キ集注ヲ加ヘテ了解セラレ且相信ノ間御承知ノ如キ経過ニテ是迄進
行シ未リタルハ一ニ首相閣下先練卓見ノ指導ニヨルコトヲ謝セサル
ベカラズ昨日ノ審議會ハ豫見ノ事ナガラニ回ノ、詔書セ發セラレ居
人ル重大經倫問題ニ對シ固陋ト駭卒ト申入外無之程ノ原案反對說アリ
之レケクモ東京市民ハ曩ニ造物ヨリ全身ニ厥衝ヲ生スベキ矣ヲ据ラ

レ尚未健康回復ノ氣運ニ向ヒ薰辛不安ノ中ニ於テ更ニ姑息因循将来
再震火災ヲ免レ難キ境遇ヲ再造スル論旨ヲ聞ソニ至リ是已ニ 詔書
遷奉ノ上ニ於テ遺憾ナルノミナラズ市民ニ罪惡ヲ累ネシムルノ基ヲ
ナスベキ虞アルユトヲ自覺セルコトナルヘシ是裏ニ參與會議及評議
會議ニ微シテ東京市民ノ希望ニ反スルコト明カナリ愚自テ以為ラク
首相閣下此点ニ關シ夙ニ明察セラル、所アラン日夜微力ヲ尽クシ大
藏大臣ト折衝シ互ニ陽意ナキ協商ヲスルコトノ幸ヲ得テ今日ニ到ル
是豈現在ノ快事タルノミナラズ幸ラシテ上 詔書ノ聖旨ヲ發揚レ下
市民否國民ノ健全ナル福利ヲ開クノ實ヲ擧グ帝國ノフル未サシスレ
ヲ達成スルヲ得テ山本内閣成立ノ意義ヲ見認ムルユトヲ得シ乎今回
ノ審議會一部ノ意見ト彼ノ未熟政党自ラ覺ラス眞ニ國家ノ利害關係

テ解セナルモノニ對シテ極力奮闘覽レテ後已ム底ノ決心ナナルベカ
バ

閣下内閣但職ノ初心ニ於テ已ニ決セラル、アラン此方ヨリ強ヒ
テ議會ニ對シ打撃ヲ与フルコトハ全然避ケナルベナラハルエ

攝政宮殿下親政ノ初步ニ方リ且國歩艱難ノ秋ニ際シ党派ナクシテ單
獨走軀ヲ捧ケテ大命ニ答ヘ奉ラントセラル、大決心ハ其レ何ソ雄ナ
ルヤ患モ亦感激闊僚ノ員ニ備ル是夫ノ榮ヲ貪リ一日ノ安ヲ倫ムモノ
ト固ヨリ品ヲ異ニス當初ヨリ自ラ大犠牲ヲ辞セズ生命ヲ賭シテ奮進
スルノ覺悟アリ假令ヒ現在ニ非難攻撃ノ衝ニ立ツヌ歎々ノ微衷必大
ヤ天罰ニ達スルノ日アリ政敵降伏シ来ルノ時アランコト信じテ疑
ハナルナリ唯恐ル閣下ノ為ニ時ニ不便ナルモノアランユトヲ即反

對派ノ所謂内閣暗礁タル後藤ノ為ノ不利ヲ來ヘコトアランヲ愚ガ主
張所信ヲ以テ勇進邁往スルコト却テ閣下ノ為メニ大局上不便ナルモ
ノアテバ明カニ愚ニ告ゲラレンコトヲ望ム處ナリ愚ガ進退ノ如キ國
家ノ為内閣ノ為將又閣下ノ為ニ快ク次スヘキナリ

閣下モ亦此國家ノ危機ニ際シ老軀ヲ以テ立ナ王碎ハ可ナリ尾全
ハ不可ナリ所謂中立中閣内閣ヲ組織シ其生命ヲ支持スルニ止マラバ
伯ノ伯タル所ノ真面目ニ非ケルベシ山本内閣ニ日ニシテ斃ル、モ志
誠ノ道ヲ開キ以テ國民ニ向テ慶ヲ覺テシムルニ足ルモノアラバ則可
ナリ夫ノ党中央立テ各派互ニ争ヒ不統一ノ内閣を解ラ免レズ已ム
ナク辞表ヲ呈シ竊カニ大命ノ再下ヲ希ニ現存内閣短命ヲ呪フガ如キ
ハ婦女子モ愧ル慶ト是敢テ閣下ニ告ル所以ノ必要アルニ非ナルベ

シ要スルニ

一、國歩艱難

二、詔書二回下ル

三、事皆近ク震笑ノ善後策ニ闕ス

四、轉禍為福ノ機目前ニ存ス

五、守都復興ハ帝國ノ復興ナリ

六、姑息因循ハ聖旨ニ反ス

七、市民現在ノ不安ヲ去ルハ可

八、然レトモ姑息ニ流レテ却テ市民ヲニテ永久ノ不安ニ

留テシムルハ不可

九、審議會一二ノ所說ハ異クモ 詔書ニ反シ永ク市民谷

自ニ不幸ヲ與ヘ中外ノ期望ニ反シ國民ノ面目ヲ汚ス
ノ虞アリ

十 彼等ノ立論ハ山本内閣存立ノ意義ヲ害スルモノニシ
テ如何ニ善意ヲ以テ解釋スルモ内閣破壊ヲ目的トス
ルモノニ非ザルカ

市民又ハ國民ニ始息ノ仁ヲ賣リテ永久ニ不利不幸ヲ
貽スモノト云フベキニ非ザルカ

地方民ノ公債事業ヲ制限シ地方發達ヲ妨クルモノト
ノ名義ニ籍リテ地方民ヲ毒シ中核ノ不健全即病体ヲ
造リ却テ永久ニ國民ノ政治文化經濟上ニ不健全ナル
累ヲ及ホスコトヲ知ラザルニ坐スルモノト云ハザル

ヲ得ス依テ左ノ決着点ニ達ス

10

15

20

25

30

固陋軽率ノ意見（江木、伊東、大石、高橋ノ意見）ニ對
シテ之ヲ排シ

詔書ノ旨ヲ体シ一向ニ進ムベキカ

然ルニハ原案ト彼等ノ意見ト參與會及評議會ノ再
議ニ付シ然後開議ニ於テ採否ヲ決セラルヘシ

大正十二年十一月二十五日

五